

第2章 美作市の文化財の概要と特徴

2-1 指定等文化財の状況

文化財保護法に基づき指定、登録されている美作市内の文化財数は、国指定7件、県指定14件、市指定185件、国登録文化財5件、総数211件を数えます。これらのうち多くを占める市指定文化財は、平成17(2005)年の市町村合併による市制施行時に、すべての旧町村指定文化財を指定当初の類型で市指定文化財に移行したものです。種別ごとで見ると、建造物が61件(国2件、国登録5件、県4件、市50件)、美術工芸品が47件(国5件、県2件、市40件)、有形の民俗文化財5件(市5件)、無形の民俗文化財19件(県3件、市16件)、遺跡(史跡)35件(県2件、市33件)、名勝地6件(市6件)、動物1件(市1件)、植物35件(県3件、市32件)、地質鉱物2件(市2件)となっています。

指定等文化財の分布状況をみると、因幡街道、出雲街道に加え、高瀬舟を利用した水運の集積地など交通の要衝と山頂や山腹に築かれた山林寺院などにまとまっています。

表6 市内所在の指定等文化財

文化財の種別			国指定等	国登録	県指定	市指定	合計
有形文化財	建造物	建造物	2	5	1	7	15
		石造物	0	0	3	43	46
	美術工芸品	絵画	3	0	0	7	10
		彫刻	2	0	1	14	17
		工芸品	0	0	1	10	11
		古文書	0	0	0	0	0
		考古資料	0	0	0	7	7
		筆籍・典籍	0	0	0	1	1
		歴史資料	0	0	0	1	1
		無形文化財		0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	0	5	5	
	無形の民俗文化財	0	0	3	16	19	
記念物	遺跡(史跡)		0	0	2	33	35
	名勝地		0	0	0	6	6
	動物		0	0	0	1	1
	植物		0	0	3	32	35
	地質鉱物		0	0	0	2	2
文化的景観			0	-	-	0	0
伝統的建造物群			0	-	-	0	0
文化財の保存技術			0	-	-	-	0
合計			7	5	14	185	211

2-2 指定等文化財の概要と特徴

(1)有形文化財

建造物の指定文化財の多くを石造物が占めます。正中2(1325)年の安蘇^{あそ}の宝篋印塔【県】をはじめ、多くが宝篋印塔や五輪塔といった供養塔です。一説には古くから山陽と山陰の勢力による主戦場となったため、亡くなった多くの兵士を弔うために各地で建てられたとされています。

木造の建造物は、県内最古の長福寺三重塔【国】と県北の民家変遷を知るうえで重要な林家住宅【国】など街道から外れた地域に遺ったものと江戸時代の参勤交代などの宿場町として栄え、今も往時の趣が遺る大原宿には田中酒造場【国登】をはじめ、本陣と脇本陣、町並みを構成する町家が遺っており、美作市の建築物の変遷を知るうえで貴重な文化財です。

美術工芸品の指定文化財は、神社仏閣の所蔵品が多くを占めます。市内寺院は山頂や山腹に位置する山林寺院が多く、特に長福寺には本尊の十一面観音立像【国】をはじめ、絹本着色両界曼荼羅図【国】などの絵画が遺っており、山林寺院であった長福寺の隆盛を語る貴重な文化財です。一方で交通の要衝であった林野^{あんようじ}では、安養寺の木造十一面観音立像【国】や壽林寺^{じゅりんじ}の涅槃図【市】など、物資以外に文物も集積していたことが考えられます。

(2)無形文化財

指定を受けた無形文化財はありません。

(3)民俗文化財

民俗文化財のほとんどを祭事が占めます。梶並神社の当人祭【県】は他に例の少ない祭事です。また、天曳神社宮原獅子舞【県】や美作町の地下芝居^{りょうせんじ}【県】のように播磨からの影響を受けて始まったものが多く遺っています。その他に靈山寺の小踊り【市】は鳥取から伝わったものとされています。安養寺^{あんようじのえよう}の会陽【市】は、西粟倉村の岩倉寺、市内五名地区、岡山市西大寺など河川交通で結ばれていた地域で行われていました。このように市内の民俗文化財は、他地域との交流の影響が色濃く残り、交流していた地域を知る貴重な文化財です。

(4)記念物

自然に囲まれた当市には、天然記念物が多く指定されています。中でも樹木が多く特に天然記念物の青木のシイノキ【県】は、所在する地区名の由来になったとされています。またオオサンショウウオの生息地域であることは自然豊かな地域であることを示します。史跡の多くは古墳が占めています。古墳は、河川を見渡す立地に築造されたものや埋葬主体部から鉄滓が出土する場合があります。被葬者像として河川交通と製鉄との関係を連想させます。

(5)文化的景観

指定された景観はありません。

(6)伝統的建造物群

地区の選定を受けた建造物群はありません。

2-3 未指定文化財の状況

未指定文化財は、現在把握している全体の物件数として、5,373件となっています。そのうち有形文化財が3,206件、民俗文化財が1,098件、記念物が945件、無形文化財が1件、文化的景観が1件、伝統的建造物群が1件となっています。有形文化財のうち建造物が2,168件、美術工芸品が1,038件となります。民俗文化財は有形の民俗文化財が1,073件、無形の民俗文化財が25件となっています。記念物は、遺跡が865件、植物の47件、名勝地18件、動物2件です。

2-4 未指定文化財の概要と特徴

(1)有形文化財

石造物は、宝篋印塔、五輪塔などの供養塔が多くを占めています。出雲街道、因幡街道、備前往来、津山道、大原道、誕生寺道^{たんじょうじ}など往来の道標も多く遺っています。また後山修験場に近いことから修験道が盛んであったと考えられるため、役行者像など修験道に関する石造物も多くみられます。

木造の建築物は、地域で祀られている小祠が多いですが、交通の要衝地には江戸時代から昭和時代前期の建造物がまとまりとなって遺っています。

古文書については、自治体史編纂によって整理されました。

(2)無形文化財

無形文化財は、江戸時代には多くの木地師が生活していたことから、伝統技術の継承発展のため建設された「木地師の館」を中心に今も木地師による工芸品が作成されています。平成3(1991)年に岡山県により「岡山県の諸職関係民俗文化財調査」が実施されています。

表7 美作市所在の文化財

		勝田地域		東栗倉地域		大原地域		作東地域		美作地域		英田地域		合計	
		指定	未指定	指定	未指定	指定	未指定	指定	未指定	指定	未指定	指定	未指定	指定	未指定
有形文化財	建造物	0	197	1	13	11	186	0	40	1	306	2	65	15	807
	石造物	2	133	0	114	5	206	17	273	17	497	5	138	46	1361
	絵画	0	2	0	3	1	24	3	4	1	9	5	14	10	56
	彫刻	1	11	2	62	0	62	4	25	2	43	8	37	17	240
	工芸品	0	4	0	7	0	73	4	0	4	46	3	36	11	166
	古文書	0	3	0	0	0	3	0	2	0	10	0	4	0	22
	考古資料	0	0	0	0	1	1	5	1	1	4	0	27	7	33
	筆籍・典籍	0	0	0	0	0	10	0	19	0	334	1	47	1	410
	歴史資料	0	0	0	0	0	1	0	26	0	48	1	36	1	111
無形文化財		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
民俗文化財	有形の民俗文化財	1	146	0	1	0	0	0	342	4	435	0	149	5	1073
	無形の民俗文化財	2	0	2	3	5	3	5	1	3	7	2	11	19	25
記念物	史跡(未指定は「遺跡」)	3	145	0	49	8	160	7	105	15	352	2	54	35	865
	名勝地	0	1	0	1	0	13	2	3	1	0	3	0	6	18
	動物	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2
	植物	4	13	4	4	3	9	9	9	6	4	9	8	35	47
	地質鉱物	0	12	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	2	13
文化的景観		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
伝統的建造物群		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
その他(伝承・民謡)		0	27	0	5	0	17	0	50	0	11	0	11	0	121
小計		13	696	9	263	34	769	56	900	57	2106	42	639	211	5373
総計		709		272		803		956		2163		681		5584	

(3) 民俗文化財

有形の民俗文化財は1,073件を数えます。978件は市内の資料館施設に所蔵している生活用具です。それ以外の多くは、神社に奉納された絵馬等です。獅子舞などの祭事やその他神事などの無形の民俗文化財は25件を数えます。

(4) 記念物

県・市の指定史跡を除くと周知の埋蔵文化財は738件となっています。埋蔵文化財の他に船着場跡、神社・寺院跡など127件を加え865件となっています。

本市の豊かな地下資源を表すものとして、市内各地に鉱山跡が各地に遺っています。昭和30年代(1955～1964)まで操業されていた鉱山から、わずかな期間で閉山した鉱山跡も多く遺っています。

(5) 伝統的建造物群

因幡街道の宿場町であった古町地区には、本陣、脇本陣をはじめ江戸時代末期から昭和時代初期の町家が多く遺っており、岡山県の町並み保存地区となっています。

(6) 文化的景観

後山地区の棚田は、周辺にたたら吹製鉄の痕跡が多く遺っていることから、たたら吹製鉄に伴う土地の改変により形成された棚田と考えられています。後山の棚田は、上山の棚田とともに国の指定棚田地域に指定されています。

(7) その他

東美作地方に伝わる大男の三穂太郎伝説や土地の由来、地域の伝承など122件を数えます。

2-5 関連する制度

(1) ふるさと文化財の森

文化庁が設定する国宝や重要文化財などの文化財建造物を修理し、後世に伝えていくために、必要な材料を供給及び研修林などのことを指します。茅や竹、漆や木材など全国に88か所(令和5年3月3日現在)にふるさと文化財の森が設定されています。本市では後山地区の日名倉山茅場が設定されています。

(2) 指定棚田地域

国が昭和25(1950)年2月1日の市町村の区域で、勾配が20分の1以上の棚田が1ヘクタール以上ある地域の中から、都道府県の申請に基づき、国が指定する地域です。41道府県において719地域が指定されています(令和5年4月現在)。本市では上山地区と後山地区の棚田が指定棚田地域に指定されています。

(3) 岡山県町並み保存地区

岡山県独自の制度で、ふるさと村・町並み保存研究会の意見と一定の条件を参考に知事が指定する昭和49(1974)年より進められた制度です。昭和50(1975)年に国により設けられた「伝統的建造物群保存地区」制度よりも早く、まだ国による面的な保存施策の整っていない時期に始められました。現在は県下で8地区が指定されており、本市では古町の町並みが指定されています。

(4) 重要地域

平成15(2003)年に文化庁が報告した「農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究」において、全国から抽出した2,311件の中で特に重要な地域とした180件を重要地域としています。本市では上山の棚田が重要地域に選定されています。

2-6 各地域の文化財の特徴

各地域における文化財の特徴を見ることができます。

(1) 勝田地域

木地師に代表される「木」の加工に関する文化財が勝田地域の特徴です。木地師の轆轤^{ろくろ}による木工技術は現在も「木地師の館」で継承されています。産業遺産と林業遺産に選定された共和林業の製材用水車があります。また和紙の原料となる三桧^{みつまた}を採集する農家が健在しています。江戸

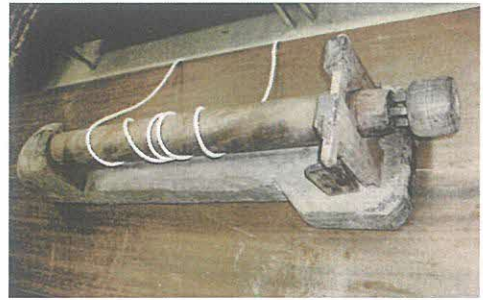


写真18 木地師が用いていた轆轤【市】

時代から続く梶並神社の当人祭【県】があります。

(2) 東栗倉地域

後山修験道とたたら吹製鉄に関連する文化財が東栗倉地域の特徴です。修験道の行場として多くの参拝者が訪れたため、行場や行場へ至る道標、石造物、役行者像が地区内に所在します。地区内にたたら吹製鉄による集落の痕跡は確認されていませんが、製鉄の際に排出される鉄滓が地区内の至る所で確認されています。



写真19 修理工事が終了した林家住宅【国】

林家住宅【国】においても製鉄業を営んでいたことが古

文書などに遺っています。また林家住宅の敷地内には製鉄の神である金屋子神^{かねやこかみ}を祀る小祠があります。

(3) 大原地域

大原地域は、因幡街道の宿場町として栄えた大原宿があり、現在も本陣、脇本陣が遺っている貴重な宿場町です。通りには造り酒屋の田中酒造場【国登】を中心に往時の姿を遺す町家が遺っています。また宮本武蔵の生誕地候補のひとつとして、伝宮本武蔵生家跡【県】や竹山城【市】など宮本武蔵に関する痕跡が多く遺っています。以上のことから、大原地域の文化財の特徴は、因幡街道と宮本武蔵です。



写真20 大原宿の町なみ

(4) 作東地域

作東地域は、播磨と出雲をつなぐ出雲街道において、播磨と美作の国境に位置します。そのため、道に関連する文化財が作東地域の特徴です。国境の宿場町であった土居宿は美作最大の宿場町でした。往時の姿を偲ばせる痕跡は、土居の一里塚【県】があります。江戸時代に土居宿を通るルートになりましたが、それ以前には、杉坂峠が播磨と美作をつないでいました。杉坂峠には隠岐に流される後醍醐天皇と救出に向かう児島高德の伝説の地として知られています。

(5) 美作地域

美作地域は、東西に出雲街道がはしり、南北には高瀬舟がとおる交通の要衝として栄えた地域です。林野地区は物資の集積所と



写真21 杉坂峠にある記念碑

して栄え、江戸時代には天領として代官所が置かれ、倉敷と呼ばれていました。林野地区には旧中国銀行【市】(現在の美作歴史資料館)をはじめ、往時の姿を遺す建造物が見られます。古代には野寺山古墳から出土した陶棺に施された文様から仏教の伝来が考えられ、交通の要衝であったため文化の伝播速度が速かったと考えられます。以上のことから美作地域の文化財の特徴は交通です。



写真22 旧中国銀行(美作歴史資料館)【市】

(6) 英田地域

英田地域は、現存する岡山県下最古の木造建築物である長福寺三重塔【国】に代表されるように、長福寺に関連した文化財が特徴です。長福寺が現在地に移る前には山号のとおり真木山中にあり、三重塔が建設された当時には僧坊が65坊を数える大伽藍であったとされます。三重塔は昭和26(1951)年に現在地に移築されましたが、今も石垣や石段などが遺り、往時の姿を偲ばせます。また長福寺参拝のための道が記録されており、道脇には丁石などの石造物を見ることができます。



写真23 長福寺三重塔【国】